

た はら さこ の うえ

# 田原迫ノ上遺跡

- 1 所在地 鹿屋市串良町細山田
- 2 起因事業 東九州自動車道建設
- 3 調査年度 平成22年度～
- 4 主な時代 縄文時代, 弥生時代
- 5 遺跡の概要

田原迫ノ上遺跡は、笠野原台地の北側縁辺部に位置します。標高は約120mで、北側の斜面を下ったところに串良川が流れています。遺跡と川との標高差は約70mです。東九州自動車道建設に伴い、平成22年度から発掘調査が実施され、平成25年度で4年目を迎えます。これまでに、縄文時代と弥生時代の遺構・遺物が発見され、本年度は延べ15,750㎡を対象に、6月6日から調査を開始しました。



竪穴住居跡（弥生時代）



二重の円形周溝（弥生時代）

## 6 注目される成果

### (1) 縄文時代早期

これまでの調査では、早期中頃（約8,500年前）の竪穴住居跡、集石、連穴土坑などや石坂式土器が発見されています。特に、連穴土坑には煙出しとみられる穴が両側2か所あるものが発見されています。調査の結果、作り替えであることがわかりました。

### (2) 弥生時代中期後半

この時期（約2,100年前）では、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、円形・方形周溝などの多くの遺構群が発見されています。これらの遺構は、多くは山ノ口式土器が使われていた時期です。

この時期の集落遺跡が、大隅半島では多く発見されています。例えば、王子遺跡、飯盛ヶ岡遺跡、石縊・十三塚遺跡、下堀遺跡などがあり、田原迫ノ上遺跡はその中でも大集落のひとつであった可能性があります。

また、本遺跡のように多様な遺構からなる集落遺跡は類例が少なく、注目されます。